

リレー・フォー・ライフ

リレー・フォー・ライフ(命のリレー)は、1985年にアメリカ人外科医が、がん患者を励まし対がん運動組織に寄付する目的で、「がんは24時間眠らない」がん患者は24時間、がんと闘っている」をメッセージとしてフィールドを走ったことから始まりました。日本国内では2006年9月、つくば市で第一歩を踏み出しました。2012年は27都道府県35か所で開催されました。

栃木県では今年初めて、宇都宮城址公園で開催されました。当日はサバイバー(がん体験者)、チーム参加ボランティア(40チーム)、講演・公演者等、2000人以上が参加されました。

↑「チームなでしこ」として参加した当院職員



「チームなでしこ」として参加

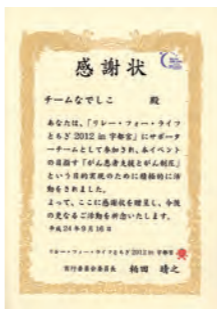
当院も、職員・看護学生の有志が「チームなでしこ」として参加し、24時間交替で歩き通すことができました。夜も途切れることなく継続されたチームのリレーウォーク、思い思いのメッセージや絵を添えて3000基のキャンドルを灯するルミナリエが夜の会場を照らしており、胸に熱いものを感じました。



↑当日の会場の様子

おわりに

今回、がん征圧のために、参加者全員が「私たちにできること」を精いっぱいやり遂げることができました。募金集めやボランティア活動は大変でしたが、大満足です。来年も「チームなでしこ」として、多くの仲間と参加し、大いに盛り上げたいと思います。



↑感謝状

【文責】 緩和ケア病棟課長 羽石 洋子



当院広報誌「みやのわ」 病院広報コンクールにて初の受賞



↑HISデザイン賞の受賞施設(当院は前列左)

当院広報誌「みやのわ」は、日本HIS研究センターによる病院広報コンクールに応募し、多くの作品の中からHISデザイン賞部門で「長野市民病院賞」をいただきました。



HISデザイン賞

HISデザイン賞とは「広報誌のデザインには編集に加わる医療者としての想いが多分に込められている」という観点から、広報誌のデザイン性を評価するために設立したコンクールの賞です。

受賞までのながれ

応募方法は、広報誌の最

新号とともに、編集方針・審査して頂きたいポイントなどをまとめた書類を提出します。その提出された書類と広報誌現物を前にして、日本HIS研究センター事務局と、昨年度グランプリを受賞された長野市民病院の方々ははじめとする市民審査員により直接審査が行われます。

審査の結果、当院広報誌「みやのわ」が長野市民病院賞として選ばれました。

表彰式に参加して

2012年11月3日、長野市で行われた表彰式では、表彰状と記念品のデジタルフォトフレームを頂きました。長野市民病院長の竹前紀樹先生には、「読めば読むほど、味が出る広報誌」とい

う講評を頂きました。また病院の職員といった「人」を表紙に掲載している点も評価して頂きました。当日会場では、全応募作品が並べられ、「みやのわ」も多くの方々に手に取って頂きました。



↑表彰状



↑当日の会場の様子